



17 編は「祈り。ダビデの詩」とあります。端書きに「祈り」とあるのは、17 編、86 編、90 編の三つです。英語訳聖書は 17 編を無垢な人の祈りと題しています。詩人は **あなたはわたしの心を調べ、夜なお尋ね／火をもってわたしを試されますが／汚れた思いは何ひとつ御覧にならないでしょう。わたしの口は人の習いに従うことなく／あなたの唇の言葉を守ります(17:3)** と、自分には汚れた思いが全くないと神の前に言い切っているのです。このような清い、純真な信仰を持っている人がいるのを知っています。羨ましい限りです。詩人は「神の言葉を守り」、「暴力の道避け」、「神の示す道を一步一步進みます」と言います。これが、詩人の無垢を示す美点となっているのです。

けれども、詩人は立ち向かう者、貪欲な敵、傲慢なことを言い、彼を打ち倒そうとする者に攻められ、包囲されている、と訴えています。そして、詩人は神を避けどころとしています。神の右の御手をもって、神の目の中に、神の翼の陰に、隠してくださいと求めています。目の中に入れても痛くないほど可愛い子、親鳥に守られる雛鳥のイメージがあります。**御もとに隠れる人には／豊かに食べ物をお与えください。子らも食べて飽き、子孫にも豊かに残すように。わたしは正しさを認められ、御顔を仰ぎ望み／目覚めるときには御姿を拝して／満ち足りることができるでしょう(17:14)** と、神の胸に隠れ、食べ物を頂き、満ち足りますと言う人は、赤ん坊のような姿です。このような幼子の信仰をさらけ出して祈っているため、「無垢な人の祈り」とされているのでしょうか。「讚美歌 21」は 456「わが魂を愛するイエスよ」を関連付けています。チャールズ・ウェスレーの詩にアメリカ人マーシュ (Simeon B. Marsh 1798- 1875) の曲をつけ、歌い継がれてきました

参照 https://hymnary.org/tune/martyn_marshall (AUDIO FILES の MD をクリックする)

ジュネーブ詩編歌 17 はオルガンとリコーダーの澄み切った音で賛美しています。(前出を参照)

18 編は語句に十数箇所の違いはあっても、サムエル記下 22 章に記されている「ダビデの感謝の歌」と、内容、形式共に全く同じです。ダビデがすべての外敵を滅ぼし、確固たる王国を築き上げることができた感謝の歌です。七つの部分に分け、要点を記しました。

- (1) 神は砦の塔 2: 岩、砦、逃れ場、大岩、避けどころ／わたしの盾、救いの角、砦の塔
- (2) ダビデの苦難 5: 死の縄がからみつき／奈落の激流が私をおののかせ／死の綱が仕掛けられる
- (3) 神の戦い 8: 地は揺れ動く／煙は噴き上がり／密雲／雨雲／霧／雷鳴／稲妻／海の底は姿を／大水
- (4) 神とダビデの関係 21: 正しさと手の清さに応じて返して下さる／慈しみには慈しみを／無垢には無垢を／貧しい民を救い上げ／高ぶる目を引き下ろされ／すべて御許に身を寄せる人に盾となって下さる
- (5) 賛美 32: 主のほかに神はない。神のほかに我らの岩はない
- (6) ダビデへの神の助け 36: 救いの盾を受け／右の御手で支え／自ら降り／私を強い者として下さる。／私の知らぬ民も私に仕え 私のことを耳にして私に聞き従い／敵の民は憐れみを乞う
- (7) 賛美 47: 主は命の神。／主よ、国々の中で／わたしはあなたに感謝をささげ／御名をほめ歌う

ダビデだけではなく、貧しい者や、敵であった者をも守られる神として、詩人は賛美しています。「讚美歌 21」460「やさしき道しるべの」が闇を照らす灯(29 節)を歌っています。

参照 <https://my.hymnary.org/song/dynamic/1005/lead-kindly-light-amid-the-encircling-gloom?toolkit=verovistatic&width=1600>